

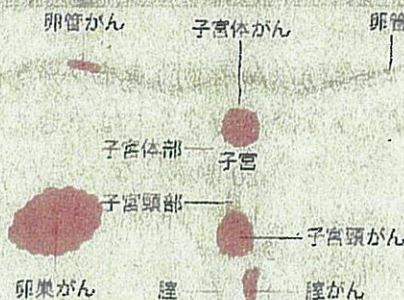
けい 子宮頸がんから命を守ろう

子宮頸がんは、どんな病気？

子宮頸がんとは、子宮頸部（子宮の入り口付近）にできるがんです。以前は40歳以上が大半でしたが、今は、20歳～30歳代で増えています。

子宮頸がんの初期は自覚症状がほとんどないため、しばしば発見が遅れてしまいます。

子宮頸がんが進行した場合は、大きな手術となり、妊娠・出産が望めなくなることもあります。



子宮頸がんの原因はウイルスなの？

子宮頸がんはHPV（ヒトパピローマウイルス）の感染が原因です。

HPVは皮膚や粘膜に存在するごくありふれたウイルスで100種類以上の型があります。子宮頸がんになるのは、そのうち15種類で「発がん性HPV」と呼ばれています。HPVの感染は主に性交渉で起こりますが、特別なことではなく、性経験のある人なら誰でも感染します。

発がん性HPVに感染しても、多くの場合、感染は一時的でウイルスは自然に排除されます。しかし、長い間感染が持続すると子宮がんを発症する場合があります。また、感染の機会があれば、繰り返し感染する可能性があります。

感染しても、子宮頸がんになるのは、ごく一部の人です。

子宮頸がんを予防するワクチンができました

発がん性HPVのうち約60パーセントをしめると言われている16型・18型を予防するワクチンがあります。このワクチンを性経験が無いうちに接種することで、HPV16型・18型の子宮頸がんを、ほぼ100%予防することができます。特に、HPV16型・18型はその他の発がん性HPVに比べてがんになりやすく、進行が早いといわれています。

